

グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

リーフレット実践事例編

中学校：外国語〔英語〕科



愛知県義務教育問題研究協議会

愛知県教育委員会

〈 平成29年3月 発行 〉

リーフレット実践事例編《中学校：外国語〔英語〕科》作成に当たって

平成20年に改訂された現行学習指導要領では、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」などを総合的に育成するため、様々な取組が行われてきました。

しかし、平成28年12月に中央教育審議会から示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」においては、現行学習指導要領の課題として、「文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に『話すこと』及び『書くこと』などの言語活動が十分に行われていない」という指摘がされています。現行学習指導要領において4技能を総合的に育成することをねらいとしながら、現状は「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていない、また生徒の英語力については、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することができないといった状況が見られます。

このような課題を解決し、次期学習指導要領に向けた英語教育の更なる充実及び生徒の英語力向上を図るために、愛知県義務教育問題研究協議会専門部会では、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて自分の考えや思いを表現することができる力の育成を目指したリーフレット実践事例編《中学校：外国語〔英語〕科》を作成しました。実践事例における各項目の説明は以下のとおりです。本実践事例編は中学校3年生での実践事例のみを掲載しておりますが、中学校最終学年での事例を参考に、1年時及び2年時での目標設定、パフォーマンステストの実施方法、内容等の工夫にも御活用ください。

【目標】

「愛知県教育委員会版 CAN-DOリスト」（右ページ参照）をもとに設定しています。

【具体的な生徒の姿】

「目標」をもとに、単元においてどのような力を付けたいのかを具体的に示しています。

【パフォーマンステスト案】

「具体的な生徒の姿」で示した内容がどこまで達成できたかを測るためのテストです。「テスト当日」の手順に従い、「指導のポイント」に留意しながらテストを行います。評価は「評価のポイント」に従い、各項目3段階（A、B、C）で行います。

【パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力】

パフォーマンステストに至るまでの授業で、「話すこと」あるいは「書くこと」において、どのような力を付けていく必要があるのかを示しています。生徒の実態を踏まえ、各時間にこれらの力を付けるためには、どのような言語活動が効果的なのかを工夫することが、生徒のコミュニケーション能力の育成につながると考えます。

また、言語活動を行う際には、生徒にとって身近なコミュニケーションの場面を設定した上で、学習した語彙や表現などを実際に活用できるような活動にすることも大切です。

愛知県教育委員会版 CAN-DO リスト

中学校卒業時に目指す姿		<p>○ 初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解することができる。</p> <p>○ 初歩的な英語を用いて、自分の伝えたいことを表現することができる。</p>			
領域	聞く (理解)	話す(表現)		読む (理解)	書く (表現)
		やり取り	発表		
中学1年生	<p>○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができる。</p> <p>○ゆっくりはっきりと話されれば、ごく短い会話など具体的に簡潔な話を聞いて、視覚情報や背景知識を活用しながら理解することができる。</p>	<p>○必要に応じて話し手に聞き返したり、相づちを打ったりすることができる。</p> <p>○聞き手に配慮しながら、自分のことや身近な話題について対話することができる。</p>	<p>○簡単な語句や文を用いて、伝えたい内容をおおむね話すことができる。</p>	<p>○指示や伝言、手紙など具体的に簡潔な英文を読んで、視覚情報や背景知識を活用しながら、概要や要点を理解することができる。</p>	<p>○自分のことや身近な話題について、語と語の区切り、つながりなどを意識し、伝えたい内容を簡単な語句や文を用いておおむね書くことができる。</p>
中学2年生	<p>○質問や依頼などへ適切に対応することができる。</p> <p>○ゆっくりはっきりと話されれば、短い会話や説明など内容的にまとまりのある話を聞いて、視覚情報や背景知識を活用しながら理解することができる。</p>	<p>○必要に応じて話し手に聞き返したり、つなぎ言葉を用いるなどして対話を続けることができる。</p> <p>○聞き手に配慮しながら、身近で様々なテーマについて対話することができる。</p>	<p>○簡単な語句や文を用いて、自分の意見や理由を明確にしながら伝えたい内容を話すことができる。</p>	<p>○短い物語や簡単な説明文など内容的にまとまりのある英文を読んで、視覚情報や背景知識を活用しながら、概要や要点を理解することができる。</p>	<p>○身近で様々なテーマについて、文のつながりや構成などを意識し、簡単な語句や文を用いて自分の意見を書くことができる。</p>
中学3年生	<p>○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができる。</p> <p>○ゆっくりはっきりと話されれば、やや長い会話や説明など内容的にまとまりのある話を聞いて、背景知識を活用しながら、話し手の意図を理解することができる。</p>	<p>○必要に応じて話し手に聞き返したり意味を確認したりして対話を続けることができる。</p> <p>○聞き手に配慮しながら、聞いたり読んだりした様々なテーマについて対話することができる。</p>	<p>○簡単な語句や文、適切なつなぎ言葉を用いて、賛否、理由、感想を明確にし、聞き手の理解を確認しながら自分の意見や主張を話すことができる。</p>	<p>○物語や図やグラフの入った説明文など内容的にまとまりのある英文を読んで、背景知識を活用し、必要に応じて推測しながら、概要や要点、書き手の意図を理解することができる。</p>	<p>○聞いたり読んだりした様々なテーマについて、読み手に配慮しながら、賛否や理由を添えた意見や感想を、簡単な語句や文を用いて書くことができる。</p>
参考	英検5級	初歩的な語句や定型表現を理解することができる。	初歩的な語句や定型表現を使うことができる。	アルファベットや符号が分かり、初歩的な語句や文を理解することができる。	アルファベット・符号や初歩的な単語を書くことができる。
	英検4級	簡単な文や指示を理解することができる。	簡単な文を使って話したり、質問をすることができる。	簡単な文章や表示・掲示を理解することができる。	簡単な文やメモを書くことができる。
	英検3級	ゆっくり話してもらえば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。	身近なことについて簡単なやり取りをしたり、自分のことについて述べるができる。	簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。	自分のことについて簡単な文章を書くことができる。

実践事例 5

Presentation 1 日本文化紹介 【Writing】

目 標	あるテーマについて、その特徴や自分の意見などをまとめた英語で書くことができる。
具体的な生徒の姿	湯飲みやひな祭りなどの日本文化をALTに紹介するための英文を、その特徴や自分の意見なども含めて、5文以上の英文で書くことができる。

パフォーマンステスト案

《テスト内容》

湯飲みやひな祭りなどの日本文化を紹介するための英文を、その特徴や自分の意見等も含めて書く。

＜文章構成の例＞

Karate is an art of self defense.
Originally it was introduced from China, and developed in Okinawa.
They fight each other with their hands, elbows, and feet, without weapons.
There are two types of karate matches: *kumite* and *kata*.
I think it's much more exciting than baseball games!

《指導のポイント》

〔当日まで〕

- 単元の学習課題として「日本文化を紹介するための英文を書く」ということをあらかじめ生徒に伝え、新文型が教科書本文の中でどのように使われているのかに着目させる。
- 毎回の授業の終わりに、新文型を使った簡単な英作文ができるよう指導する。

〔当日〕

- 評価のポイント及びパフォーマンステストの手順を説明する。
- 原稿を書かせる。（制限時間は15分間とし、辞書の使用は認めない。）
- 授業の最後で原稿を回収し、JTE又はALTが評価をする。

〔テスト後〕

- 書いた内容について個別に確認したり、単元で学習した表現について振り返らせたりしながら、どのように書けばよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。
- 単元の目標に向け、指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント

内容	A	ある日本文化についての紹介文を、特徴や自分の意見を含む5文以上の英語を使って書くことができている。
	B	ある日本文化についての紹介文を、特徴や自分の意見を含む3文程度の英語を使って書くことができている。
正確さ	A	文法や語彙、語法の誤りがほとんどない。
	B	文法や語彙、語法に誤りがあるが、意味内容の伝達を妨げるほどではない。

パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力

【Unit1 Starting Out】

- ・あることやものについて、視点を変えながら説明したり、説明を読み取ったりすることができる。

【Unit1 Dialog】

- ・身の回りのものについて、誰によって書かれた本か、どこで作られたものか等を尋ねることができる。

【Unit1 Read and Think①】

- ・日本文化の特集記事を読んで、現代の日本文化の世界への広がり、その影響について理解することができる。

【Unit1 Read and Think②】

- ・英文日記を読んで、筆者の気持ちなどを理解することができる。

【Unit1 Activity 1】

- ・美術館のオーディオガイドを聞いて、説明されている内容を聞き取ることができる。また、ある作品について、自分の感想も入れながら紹介することができる。

【事前練習】

- ・教科書 p.18 を学習し、日本文化についてのモデル文を理解することができる。

This is called a *yunomi*.
It's used when you drink tea.
A *yunomi* usually doesn't have a handle.
This *yunomi* is Arita ware from Saga prefecture.
There are many kinds of *yunomi* in Japan.
Some of them are really beautiful.

<読み取りのポイント>

- 1 紹介しているものは何か。
- 2 それが使われるのはどんなときか。
- 3 どんな特徴があるか。

- ・教科書 p.19 の文章構成の例を参考にして、必要ならば辞書を使って、日本文化を紹介するための英文を考えることができる。
- ・特徴を伝えるには「名称・定義」「簡単な説明」「特徴」の3文が、また補足情報を伝えるには「その他の情報」「自分の感想」の2文が必要となるため、テスト当日は5文以上書くよう伝える。
- ・ただし、事前練習では原稿（英文）を書かせるのではなく、「文章構成の例」を参考にしてあくまでもキーワードをまとめるにとどめさせる。

<文章構成の例>

	例1 おにぎり	例2 すもう
1 名称・定義	popular Japanese food	Japanese national sport
2 簡単な説明	made of rice	kind of wrestling
3 特徴	easy to take anywhere	simple and exciting
4 その他の情報	delicious and cheap	many foreign sumo wrestlers
5 自分の一言	one of favorite food	as interesting as soccer

実践事例 6

Unit 3 Fair Trade Event 【Speaking : やり取り】

目 標	話し手に聞き返したり意味を確認したりして、対話を続けることができる。
具体的な生徒の姿	自分の行きたい国やその理由について、現在完了形やコミュニケーション・ストラテジーを積極的に使い、相手と1分間対話することができる。

パフォーマンステスト案

《テスト内容》

A L TかJ T Eと、自分の行きたい国について1分間対話をする。（以下、対話例）

<p>T: <u>Where do you want to go?</u> S: I want to go to Finland. <u>Have you ever been there?</u> T: No, I haven't. Have you? S: No, I haven't. Look at this picture. (写真を見せて) T: Wow, it's so beautiful. <u>Why do you want to go there?</u> S: Finland is very famous for an aurora like this picture. I read the news about it in a book when I was 8 years old, and, since then, I have wanted to go there to see it for a long time. Where do you want to go?</p>
--

《指導のポイント》

〔当日まで〕

- ・単元の初めにパフォーマンステストの実施期日とテーマ、評価について予告しておく。
- ・1分間の対話を成立させるために、教師側から三つの質問を提示しておく（対話例下線）。それらに答えを書いた後、それをもとに対話練習を行う。（1.5～2時間）
- ・ふだんの授業においてコミュニケーション・ストラテジーを十分使って対話活動をしていく。

〔当日〕

- ・テストは別室で行う。対話の相手は教師からの指示により、A L TかJ T Eと行う。
- ・自分の用意した写真等を使い、英文の解答を見ずに対話することを原則とする。
- ・待機する生徒に自主学習などの指示をする。

〔テスト後〕

- ・記録映像等を通してやり取りの内容をフィードバックし、どのような表現ができるようになればよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。
- ・単元の目標に向け、指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント

内容	A	写真や絵を効果的に使い、行きたい国とその理由を、相手に伝えることができている。
	B	行きたい国とその理由を相手にほぼ伝えることができている。
正確さ	A	発音や文法、語法に誤りがない。
	B	発音や文法、語法に多少誤りがあるが、意味内容の伝達はできている。
りゅうちょう 流暢さ	A	コミュニケーション・ストラテジーを適切に使い、1分間自然な対話ができている。
	B	多少途切れるが、コミュニケーション・ストラテジーを使い、1分間対話ができている。

パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力

【Unit2 Starting Out】

- ・現在完了形（継続）の文を使って、これまで続いていることについて伝え合うことができる。

【Unit2 Dialog】

- ・現在完了形（継続）の文を使って、尋ねたり答えたりできる。

ex.) A: I have wanted to go to Finland.

B: Oh, I see! How long have you wanted to go there?

A: For five years.

コミュニケーション・ストラテジー

Well..., / Let's see..., / Pardon? /

Slowly, please. / Excuse me? /

Really? / Oh, I see. / Sounds great! /

Could you say that again? /

That's nice. / etc.

【Unit2 Read and Think】

- ・写真の提示の仕方や行きたい国について説明する表現を学ぶことができる。

【Unit3 Starting Out】

- ・現在完了形（経験）の文を使って、尋ねたり答えたりできる。

【Unit3 Dialog】

- ・現在完了形（完了）の文を使って、尋ねたり答えたりできる。

ex.) Have you ever visited Finland? --- Finland? No, I haven't. Have you?

【Unit3 Read and Think①】

- ・have been to... 「…に行ったことがある」を使って、尋ねたり答えたりできる。

【Unit3 Read and Think②】

- ・不定詞（原因を表す副詞的用法）を使って、「・・・してうれしい」「・・・して驚いた」など伝え合うことができる。

【Unit3 Activity①②】

- ・絵やグラフの使い方を知り、自分のテストで使用する写真や絵などを準備することができる。

実践事例 7

Unit 4 To Our Future Generations 【Speaking : やり取り】

目 標	必要に応じて話し手に聞き返したり要点を確認したりして対話を続けることができる。
具体的な生徒の姿	被災した外国人を支援するために、外国人に聞き返したり要点を確認したりしながら外国人の求める情報を伝えることができる。

パフォーマンステスト案

《テスト内容》

避難所情報掲示板の情報を基に、被災した外国人（ALT）の求める情報を英語で伝える。

（対話例）

ALT : Excuse me. I cannot read Japanese.

Would you help me?

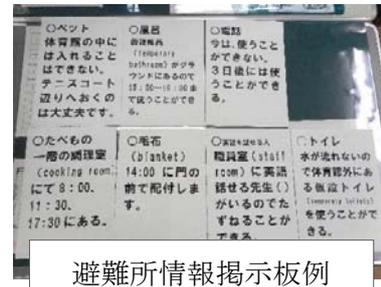
S 1 : Sure.

ALT : I don't know where to go to get some food or drink.

S 1 : Ah, you can get them at the cooking room at 8:00, 11:30 and 5:30.

ALT : Where is it?

S 1 : It's on the first floor.



避難所情報掲示板例

《指導のポイント》

〔当日まで〕

- ・単元の学習課題として「被災した外国人のためにできることを考え、英語を使ってサポートできるようになろう」を掲げる。
- ・毎時間の帯活動で、災害に関連したトピックを提示して英会話練習をさせるとよい。

〔当日〕

- ・教室でパフォーマンステストの手順を説明する。
- ・待機する生徒に自主学習などの指示をする。
- ・全員が終了した段階で振り返りをする。

〔テスト後〕

- ・記録映像等を通してやり取りの内容をフィードバックし、どのような表現ができるようになればよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。
- ・単元の目標に向け、指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント

内容	A	被災した外国人の抱える問題点に対して、掲示されている避難所情報カードから情報を取捨選択し、ALT（JTE）に伝えることができた。
	B	被災した外国人の抱える問題点に対し、すべての情報ではないが、おおむね ALT（JTE）に伝えることができた。
正確さ	A	文法を間違えることなく、ALT（JTE）に伝えることができた。
	B	文法的に多少の誤りはあっても、ALT（JTE）に伝えることができた。

パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力

【Unit4 Starting Out】

- ・避難所などで外国人に、すること(what to)や何かのやり方(how to)などを伝えることができる。
ex.) Do you know how to get a blanket?

【Unit4 Dialog】

- ・被災した外国人や支援する人にとって、難しいことや必要なこと(It … for 人 to ~)を話すことができる。
ex.) It is difficult for us to take a bath every day in this situation.

【Unit4 Read and Think ①】

- ・震災に関する文を読み、キーワード(a special violin)とそのつながりを理解することができる。

【Unit4 Read and Think ②】

- ・被災した外国人にしてもらいたいこと(want 人 to ~)や、支援する人に求められていることについて、意見交換することができる。
ex.) I want you to help me when I carry blankets.

実践事例 8

Unit 4 To Our Future Generations 【Writing】

目 標	あるテーマについて、読み手に配慮しながら、理由を添えた意見を書くことができる。
具体的な生徒の姿	被災した外国人の立場に立ち、必要な情報を相手に分かりやすい文章で書いて伝えることができる。

パフォーマンステスト案

《テスト内容》

避難所情報カードの情報を基に、被災した外国人（ALT）の求める情報を取捨選択し、分かりやすい文章で手紙を書く。

(解答例)

Dear Kate,
Hello, my name is Kenta. I am a junior high school student, and I am here as a volunteer. I read your letter, so I want to answer your questions.
1 You can get food or drink at the cooking room at 8:00, 11:30 and 5:30.
The room is on the first floor.
2 You can use a temporary bathroom on the playground from 3 p.m. to 7 p.m.
We want you to bring a towel.
3 You cannot use the telephones now. I will tell you when to use them and where to go later.
If you want someone to help you, please talk to me!

《指導のポイント》

〔当日まで〕

- ・単元の学習課題として「被災した外国人のためにできることを考え、英語で書けるようになる」を掲げる。
- ・毎授業のまとめの時間でテーマを与え、本時で学習した文型を使って自分の考えなどを書く時間を設定するとよい。

〔当日〕

- ・教室でパフォーマンステストの手順を説明する。
- ・時間設定（30分）をし、テストを開始する。終了したらテストを回収する。

〔テスト後〕

- ・書いた内容について個別に確認したり、単元で学習した表現について振り返らせたりしながら、どのように書けばよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。
- ・単元の目標に向け、指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント

内容	A	被災した外国人が必要とする情報を全て書くことができた。
	B	被災した外国人が必要とする情報は書いてあるが、多少内容が不明確であったり文の流れがよくなかったりする。
正確さ	A	文法や語彙、語法に誤りがほとんどなく、被災した外国人が情報を誤解せず、きちんと理解できるように書くことができた。
	B	文法や語彙、語法に誤りがあるが、被災した外国人の理解を妨げるほどではない。

パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力

【Unit4 Starting Out】

- ・避難所などで外国人に、すべきこと(what to)ややり方(how to)などを考えて書くことができる。
ex.) I can show you how to use this phone.

【Unit4 Dialog】

- ・被災した外国人や支援する人にとって、難しいことや必要なこと(It ... for 人 to ~)について書くことができる。

ex.) It is difficult for us to take a bath every day in this situation.

【Unit4 Read and Think ①】

- ・震災に関する文を読み、キーワード(a special violin)とそのつながりを理解することができる。

【Unit4 Read and Think ②】

- ・震災に関する文章を読み、その内容や登場する人々の思いを読み取ることができる。
- ・被災した外国人にしてほしいこと(want 人 to ~)や、支援する人に求められていることについて書くことができる。

ex.) I want you to help me when I carry blankets.

《パフォーマンステスト資料》

【状況設定】

あなたの地区で震度5の地震が発生しました。あなたは家族とともに中学校に避難してきました。避難所では、中学生が働き手となり、様々なお手伝いをします。あなたの仕事は被災した外国人の対応です。

避難所開設後、被災をしたアメリカからの外国人観光客 Kate (ケイト)が、1枚のメモを避難所スタッフに渡しました。そして、それがあなたのもとに届きました。

以下の情報メモをもとに、Kate に返事を書いてください。

●避難所情報カード

- ・校舎内のトイレは水が流れない。体育館外にある仮設トイレ(temporary toilets)を使うことができる。
- ・食べ物と飲み物は、一階の調理室(cooking room)にて 8:00, 11:30, 17:30 の3回で配給される。
- ・今は電車を使うことができないが、3日後使えるようになる。
- ・仮設風呂(temporary bathroom)がグラウンド(playground)にあるので 15:00~19:00 まで使うことができる。タオル(towel)を持参してほしい。
- ・電話を使うことができない。今は使える場所がないが、あとで情報が入ってくる。

Hello. I'm Kate. I'm a tourist from New York. I am very surprised and nervous to experience an earthquake here. I stayed in ABC Hotel with my mother. The hotel was destroyed, so we came to this gym.

We are worried about staying here because we cannot use Japanese at all. We need your help. We would like to know about three things.

- 1 Where and when could we get something to eat and drink?
- 2 Could we take a bath here? Do you want us to bring towels?
- 3 Could we use toilets? Would you tell us where to go?

Now I will walk around here, please give it to my mother.

I want to know the information.

Thank you,

Kate

実践事例 9

Daily Scene 4 道案内

【Speaking : 発表】

目 標	理由、感想を明確にし、自分の意見を話すことができる。								
具体的な生徒の姿	A L Tに自分が勧める名古屋の名所とそこでできること、なぜ勧めるのかといった理由に合わせて、そこまでの行き方を紹介することができる。								
パフォーマンステスト案									
<p>《テスト内容》</p> <p>A L Tへ自分が勧める名古屋の名所と、そこまでの行き方を説明する。</p>									
<p>解答例（東山動植物園）</p> <p>My recommended place is Higashiyama zoo. Take the Meitetsu Honsen to Nagoya station and change trains there. Take the Higashiyama Line to Higashiyama Koen station. It is the sixth stop from Nagoya station. You can see many animals there. I think you should see koalas there. They are so cute.</p> <p>資料等を用意し、プレゼンテーションを行う。</p>									
<p>【想定される名所】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・名古屋港水族館</td> <td>・東山動物園</td> <td>・名古屋城</td> <td>・大須</td> </tr> <tr> <td>・熱田神宮</td> <td>・リニア・鉄道館</td> <td>・徳川美術館</td> <td>・栄</td> </tr> </table>		・名古屋港水族館	・東山動物園	・名古屋城	・大須	・熱田神宮	・リニア・鉄道館	・徳川美術館	・栄
・名古屋港水族館	・東山動物園	・名古屋城	・大須						
・熱田神宮	・リニア・鉄道館	・徳川美術館	・栄						
<p>A L Tへプレゼンテーションをしたあと、A L Tからの質問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ How long does it take from here to Higashiyama zoo? ・ How much is the fare to Higashiyama Koen? ・ What animal can we see except koalas? 									
<p>《指導のポイント》</p> <p>〔当日まで〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Daily Scene4 の導入時に、「来月 A L T の友達が日本に遊びに来る。そのときに、名古屋に遊びに連れていきたい。お勧めの場所と、そこまでの行き方を教えてほしい。」といった内容を生徒に伝え、自分が勧める場所と、そこへの行き方を調べるようにする。 ・ テストは、別室で A L T と 1 対 1 で行う。 ・ 地下鉄路線図を生徒に配付し、それをもとに説明できるようにする。 ・ 自分の勧める場所に行ってみたいと思われるプレゼンテーションをするための資料をまとめるよう指示する。 <p>〔当日〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人練習（5分） パフォーマンステストに向けて、個人練習を行う。 ペアになって聞き合うことも可とする。 ・ パフォーマンステスト（40分） 別室（廊下）にいる A L T のところへ行き、資料を見せながら、自分が勧める場所を紹介する。 待機する生徒に自主学習などの指示をする。 ・ 評価は A L T が行う。 <p>〔テスト後〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記録映像等を通して発表の内容をフィードバックし、どのような表現ができるようになればよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。 ・ 単元の目標に向け、指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。 									

評価のポイント

内容 1	A	最寄り駅から目的の場所までの乗換えや、運賃、何番目の駅かなど、必要な情報を交えて伝えることができる。
	B	最寄り駅から目的の場所までの乗換えについて伝えることができる。
内容 2	A	自分が勧める場所について、基本的な情報だけでなく、自分の経験や、感想を含めて勧めることができる。
	B	自分が勧める場所について、基本的な情報のみを伝えることができる。
正確さ	A	発音や文法、語法に誤りがない。
	B	発音や文法、語法に多少誤りがあるが、意味内容の伝達はできている。

パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力

【Presentation 1】

- ・自分の勧めるものの実物を見せながら紹介することができる。

【Unit3 Starting Out】

- ・自分がこれまでに経験したことについて述べるすることができる。

【Daily Scene 4】

- ・乗換えのある乗り物での行き方を教えることができる。
- ・教科書 pp. 68-69 を使って、乗換えの表現を身につける。
- ・名古屋地下鉄の路線図を使い、主な施設、観光地への行き方を聞いたり、答えたりする活動を行う。

実践事例 10 Unit 5 Living with Robots – For or Against 【Speaking : 発表】

目 標	あるテーマについて、理由を述べる表現を用いながら、自分の主張等を話すことができる。
具体的な生徒の姿	学校の制服が必要かどうかというテーマについて、「賛成、反対の立場」「理由」「まとめ」という構成を組み立てた上で、教師や他の生徒に対して説得力のあるスピーチをすることができる。

パフォーマンステスト案

《テスト内容》

次のテーマについて、JTE又はALT、あるいはクラス全体の前でスピーチをする。

<テーマ>

We should have school uniforms.

<スピーチ例>

I am for the opinion. I think we should wear school uniforms. These are my reasons.

First, it is equal for every student and family.

Second, it is easier for students to choose what to wear to school.

Third, school uniforms are useful to maintain school discipline.

School uniforms are good for students and schools. I think we should also have school uniforms in elementary schools.

《指導のポイント》

〔当日まで〕

- 単元の学習課題として、あるテーマについて説得力のあるスピーチをすることをあらかじめ伝えた上で、毎回の授業で生徒が自分の考えを発表したり、ペアで話し合ったりする機会を設ける。

〔当日〕

- 教室でパフォーマンステストの手順を説明する。
- 教室あるいは別室で一人ずつスピーチをする。（JTE又はALTが評価）
- 待機する生徒に自主学習などの指示をする。
- 全員が終わった段階で、教室でJTE又はALTが講評をする。

〔テスト後〕

- 記録映像等を通して発表の内容をフィードバックし、どのような表現ができるようになればよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。
- 単元の目標に向け、指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント

内容	A	スピーチの構成にまとまりがあり、賛成又は反対の理由に説得力がある。
	B	スピーチの構成にまとまりがある。
正確さ	A	適切な発音でスピーチをすることができ、語彙の選択や文法もほとんど間違いがない。
	B	語彙の選択や文法に少し間違いがあったが、最後までスピーチをすることができる。

パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力

【Unit5 Starting Out】

- ・ロボットについて紹介する新聞記事の内容を理解することができる。

【Unit5 Dialog】

- ・あることを知っているかどうかなどについて話すことができる。

【Unit5 Read and Think ①】

- ・ロボットとの共存についての議論を読んで、話し手の主張を理解することができる。

【Unit5 Read and Think②】

- ・ロボットとの共存についての議論を読んで、別の話し手の主張を理解することができる。

【Unit5 Activity】

- ・電車の優先席についての議論を聞いて、話し手の主張やその理由を聞き取ることができる。
また、相手の意見を受けて自分の考えとその理由を述べながら、議論をすることができる。

【事前練習】（1時間）

- ・英語での意見文の書き方（書き出しや **First/Second** 等のつなぎの言葉）を理解することができる。
- ・必要ならば辞書を用いて、賛成又は反対の理由を考えさせ、構成にまとまりのある原稿を書くことができる。
- ・必要に応じてコミュニケーション・ストラテジーを使い、適切な発音で複数のペアと意見交換をすることができる。

<コミュニケーション・ストラテジー>

（相手の話がうまく理解できなかった場合）

- ・ Pardon? / Slowly, please. / Excuse me? / Could you say that again?

（言葉に詰まったり、自分の考えを整理したい場合）

- ・ Well... / Let's see.

（相手の意見に同意する場合）

- ・ I agree ... / I think so, too.

（自分の意見を伝える場合）

- ・ I think... / I also think... / In my opinion, ...

（相手の意見に反対する場合）

- ・ I don't think... / I disagree...

<会話例>

A: Do you think we should have school uniforms?

B: Yes, I do. [No, I don't.]

A: Why do you think so?

B: Because ... How about you?

A: I (don't) think we should have school uniforms because...

目 標	ある意見に対して、賛否や理由を添えた意見を述べることができる。
具体的な生徒の姿	「携帯電話を夜9時以降に使うべきではない」という意見について、賛成、反対の立場を明確にし、理由を添えて自分の意見を書くことができる。

パフォーマンステスト案

《テスト内容》

次の英文を読んで、自分の立場を明確にして、自分の考えをまとめる。

My parents and teachers say that junior high school students should not use cell phones after nine p.m. But I think that it is not good. I want to play games, listen to music, and communicate with my friends with LINE. What do you think?

解答例

I am against the opinion. I think we should not use cell phones after nine p.m.

There are two reasons. First, we can't sleep well if we use cell phones after nine. We have to do our homework or get ready for the next day. Second, using cell phones for a long time is not good for our eyes.

《指導のポイント》

〔当日まで〕

- ・辞書は使わない。既習の英語のみで書く。
- ・賛成、反対の立場を表す文を1文、その理由を含む文を2文以上で答える。

〔当日〕

- ・意見交換（10分）
「携帯電話を夜遅くまで使うこと」について、仲間と英語又は日本語で意見交換をする。
- ・パフォーマンステスト（15分）
問題用紙を配付し、パフォーマンステストに取り組む。15分後に回収する。
- ・残りの時間は単元全体の振り返り、又は新しい単元の導入をする。

〔テスト後〕

- ・書いた内容について個別に確認したり、単元で学習した表現について振り返らせたりしながら、どのように書けばよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。
- ・単元の目標に向け、指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント

内容 1	A	説得力のある賛成・反対の理由を三つ以上挙げ、まとまりのある意見文を書くことができる。
	B	賛成か反対かを述べ、その理由を二つ挙げ、意見文を書くことができる。
内容 2	A	もとの意見文に書かれた理由に触れながら、自分の意見を述べるすることができる。
	B	もとの意見文に書かれた理由には触れてないが、自分の意見を述べるすることができる。
正確さ	A	語彙や文法の誤りがほとんどなく、全体として、自分の主張がはっきりとしたまとまりのある英文を書くことができる。
	B	語彙や文法の誤りが幾つかあるが、全体として、まとまりのある英文を書くことができる。

パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力

【Unit5 Starting Out】

- ・人やものについて情報を加えて説明することができる。

【Unit5 Dialog】

- ・間接疑問文を使って、自分が何かを知っているなどと述べるができる。

【Unit5 Read and Think ①】

- ・相手の意見を受けて自分の考えを述べながら、議論することができる。
- ・相手の意見に同意する場合、反対する場合の表現を身に付ける。
 - ・ I think / I also think / I don't think
 - ・ I agree / I disagree
 - ・ In my opinion,
 - ・ I see what you mean, but / I see your point, but / You may be right, but
- ・教科書P 7 4の二人の意見から一つを選び、賛成、反対の立場とその理由を英語で書く。賛成、反対の立場を述べ、理由を1文加える。

【Unit5 Read and Think ②】

- ・相手の意見を受けて自分の考えを述べながら、議論することができる。
- ・教科書p 7 6の3人の意見から一つを選び、賛成、反対の立場とその理由を英語で書く。賛成、反対の立場を述べ、理由を1文で加える。

【Unit5 Activity①】

- ・優先席についての議論の内容を聞き取ることができる。

【Unit5 Activity②】

- ・紙の辞書と電子辞書のどちらがよいかについて議論をすることができる。

目 標	与えられたテーマについて理由を明確にした紹介文を書くことができる。
具体的な生徒の姿	自分が選んだ世界の偉人についてALTや友達に紹介する英文を、その人物がしたことや選んだ理由を明確にし、関係代名詞の文を入れて5文程度で書くことができる。

パフォーマンステスト案

《テスト内容》

“This is the greatest person in the world.”をテーマに15分間で紹介文を書き、提出する。

(紹介文の例)

The greatest person in the world I choose is Mother Teresa. (①)

I am interested in volunteer work. (③)

I hope I want to work for many sick people and poor-minded people in the future.

Mother Teresa was the nun who opened a home for poor people who were dying.

Also she made a home for children who had no family. (②)

In 1979, she got the Nobel Peace Prize. (②)

In her speech, Mother Teresa said, “Love begins at home. Smile at each other. Help each other. Then more and more love will grow.”

I was very impressed with her words and work. (③)

I respect her very much.

《指導のポイント》

〔当日まで〕

- ・授業で使用するワークシートやノートに、授業ごとに、紹介文に必要な英文（①人物名、②どうい
う人か（何をしたか）、③選んだ理由）を書き足していく。（上記の紹介文下線部）
- ・単元の初めにパフォーマンステストの実施期日とテーマ、評価について知らせておく。偉人を決定
する時間はとらないが、単元の終わりに英文をまとめる時間を保障する。（0.5～1時間）

〔当日〕

- ・“This is the greatest person in the world.”について、自分の選んだ人物がどういう人かと選んだ
理由を、仲間と紹介し合う。（10分間）
- ・パフォーマンステストに取り組む。（15分間）
- ・残りの時間は単元の振り返りをしたり、次の内容へ入ったりする。

〔テスト後〕

- ・書いた内容について個別に確認したり、単元で学習した表現について振り返らせたりしながら、ど
のように書けばよいのかを具体的に助言することで、次の学びへの意欲を高めるようにする。
- ・単元の目標に向け、指導過程や評価方法は適切であったかを検討し、今後の改善につなげる。

評価のポイント

内容 1	A	文脈の中で適切に関係代名詞の文を使い、5 文程度かそれ以上で紹介文をまとめることができている。
	B	関係代名詞の文を入れ、5 文程度で紹介文をまとめることができている。
内容 2	A	その人物について、名前や何をした人かの説明と、自分が選んだ理由が書いてあり、読み手に十分伝えることができている。
	B	その人物について、名前や何をした人かの説明と、自分が選んだ理由が書いてある。
正確さ	A	文法や語彙、語法の誤りがほとんどない。
	B	文法や語彙、語法に多少の誤りがあるが、意味内容の伝達はできている。

パフォーマンステストまでに身に付けておく資質・能力

【Unit6 Starting Out】

- ・名詞を修飾する文で、写真の人物について説明する英文を書くことができる。

ex.) This is the person I choose.

【Unit6 Dialog】

- ・関係代名詞 who を使って、写真の人物について説明する英文を書くことができる。

ex.) Aung San Suu Kyi is a political leader who fights for democracy.

【Unit6 Read and Think①】

- ・関係代名詞 that [which] (主格) の文を使って、写真の人物について説明する英文を書くことができる。

ex.) It was a prize that made people happy.

【Unit6 Read and Think②】

- ・関係代名詞 that [which] (目的格) を使って、写真の人物について説明する英文を書くことができる。

ex.) The world that she wants may not come easily.

【Unit6 Activity①②】

- ・Activity のレポートやクイズの文などを、自分の紹介文の参考にできる。

ex.) Myanmar is the country Aung San Suu Kyi decided to work for.
Doraemon is an anime character who is loved in many countries.

【編集後記】

新学習指導要領では、小学校高学年に「外国語科」が、中学年に「外国語活動」が導入されます。各学校においては、このような動向を踏まえ、児童生徒や地域の実態等に応じて、英語によるコミュニケーション能力を身に付けるための授業を創意工夫していくことが大切になります。

本リーフレットは、各学校でこうした取組を進める際の一助としていただくために作成したものです。リーフレットの編集に当たっては、県内各地における英語教育の様々な取組を参考にさせていただきました。

本リーフレットを積極的に活用することで、学習指導要領の改訂を見据えたスムーズな対応を進めていただくとともに、授業実践の更なる活性化につなげていただければ幸いです。

平成28年度愛知県義務教育問題研究協議会〈委員〉

(順不同・敬称略)

会 長	野田 敦敬 (愛知教育大学副学長)
副会長	川合 基弘 (知立市教育委員会教育長)
委 員	樋口 貴子 ((株)キャリアデザイン代表取締役社長)
	太田 光春 (名古屋外国語大学教授)
	都築 楓 (愛知県地域婦人団体連絡協議会副会長)
	杉浦 隆 (NHK名古屋放送局編成部アナウンス専任部長)
	加藤 宣和 (常滑市教育委員会教育長)
	山田 茂美 (江南市教育委員会委員)
	平野香代子 (大治町教育委員会教育長)
	金田 慎也 (名古屋市教育委員会学校教育部長)
	加藤 千博 (東海市立加木屋小学校長)
	伊藤 久仁 (名古屋市立高蔵小学校長)
	杉山美津夫 (名古屋市立白鳥小学校教諭)
	豊嶋久美子 (名古屋市立飯田小学校教諭)
	三浦 那智 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成27年度会長)
	草野由美子 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成27年度副会長)
	平岡 将暢 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成28年度会長)
	近藤 順子 (愛知県小中学校PTA連絡協議会 平成28年度副会長)
	平井 克明 (愛知県総合教育センター研修部長)

平成28年度愛知県義務教育問題研究協議会〈専門部会委員〉

(順不同・敬称略)

部会長	太田 光春 (名古屋外国語大学教授)
委員	池田 周 (愛知県立大学准教授)
	松井 孝彦 (愛知教育大学教職大学院講師)
	片桐 常夫 (豊田市立浄水中学校長)
	鵜居 青江 (一宮市立今伊勢西小学校教諭)
	鈴木麻衣子 (豊橋市立栄小学校教諭)
	都筑 香理 (岡崎市立美川中学校教諭)
	橋本 義武 (半田市立半田中学校教諭)
	白井 貴也 (豊川市立音羽中学校教諭)
	久保田香直 (安城市立安城西中学校教諭)
	武田 多聞 (蟹江町立蟹江中学校教諭)
	稲葉 吉則 (岩倉市立岩倉中学校教諭)
	小川 純子 (愛知県総合教育センター研究指導主事)

平成28年度愛知県義務教育問題研究協議会〈事務局〉

荻原 哲哉 (愛知県教育委員会学習教育部長)
柵木 智幸 (愛知県教育委員会義務教育課長)
浅野 薫史 (愛知県教育委員会義務教育課主幹)
太田佳永子 (愛知県教育委員会義務教育課課長補佐)
鈴木 佳樹 (愛知県教育委員会義務教育課課長補佐)
伊藤 孝明 (愛知県教育委員会義務教育課主査)
兼子 明 (愛知県教育委員会義務教育課主席指導主事)
松浦 恵美 (愛知県教育委員会義務教育課指導主事)

愛知県義務教育問題研究協議会

「グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方」リーフレット

〈〈実践事例編〉〉 小学校:外国語活動

〈〈実践事例編〉〉 中学校:外国語〔英語〕科

発行日 平成29年3月31日

制作 愛知県教育委員会 義務教育課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-961-2111 (県庁代表)

義務教育課 Web ページ

<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/gimukyoiku/index.html>

に掲載してあります。